

実践記録 シリーズ 74

沼垂地域学～ 学校と地域の連携グループ

【出前講座「栗ノ木川」】

前新潟市東地区公民館長 浅野 雅生



栗ノ木川調査活動

1 沼垂地域学へ 小学校の先生が参加

平成15年度から当館の事業（地域の歴史を考える）として、沼垂地域学を開催した。そこには、沼垂小学校の先生が4人も参加してくれた。学校が総合学習で地域に発信する際に、地域の受け皿として地域学が重要だという考えからだった。

沼垂地域学は、3つのグループをつくり、その一つが「学校と地域の連携」グループだった。そのグループの活動として、沼垂小学校5年生の総合学習と連携し、出前講座「栗ノ木川」を開催することになった。

2 子どもと一緒に学ぶ 出前講座「栗ノ木川」

学校の計画に合わせた連携事業で、2回目の10月14日の栗ノ木川ウォッチングは当館で主催した。昭和23年に建設された竹尾排水機



栗ノ木川ウォッチング

場は、当時東洋一の施設だった。今は骨格がまだ残り、当時の面影を残しているが、雑草が生い茂り緑多い場所になっていた。町歩きの一つのコースとして面白いところだった。

3 連携して分かったこと ～住民が小学校の体育館に 集まった

(1)総合学習には教育ボランティアが重要なこと

①総合学習を深めるためには、なるべく多く充実した校外体験学習をする必要があるが、

そのためには担任の先生だけではスタッフ不足である。

②総合学習では、一人ひとりの子どもの問題意識や思いを大事にしていく必要があるが、グループ学習でもなるべく多くのグループに分ける必要がある。先生だけでは無理がある。

(2)学習の相棒として小学生は頼りになる存在

①地域学の1コマでも地域の取材があったが、結局、取材は予約した味噌工場の社長さんのインタビューだけで、町歩きのみで止まった。

しかし、子どもなら、住民も突然家を訪問しても気軽に昔のことなど話してくれた。

②発表会にも、小学生（80人）が住民を個別招待（1人20枚）し、約80人といつもの同じでない人達は大勢参加した。

地域住民の意識や行動の変容をはかるためには、子どもとの、小学校との連携が必要である。

出前講座「栗ノ木川」プログラム

9月26日（金）	栗ノ木川を探検（阿賀野川の取水口沢海から亀田郷芦沼館、鳥屋野潟、山ノ下閘門まで）
10月14日（火）	栗ノ木川ウォッチング（沼垂小学校から竹尾排水機跡まで）
10月21日（火）	栗ノ木川調査活動（5年生が21グループに別れ野外調査・川の汚れ・川の流れ・ゴミ・魚・植物等の調査）
10月22日（水）	同上（グループで住民へ聞き取り調査等）
11月4日（火）	ポスター・セッション（学校体育館で住民を招待して発表会、インタビューに応じた約80人の参加あり）
11月5日（水）	企画会議（担任教師らとワークショップの内容を協議）
11月14日（金）	再生に向けた子どもたちの活動（ヘドロ除去の実験など）
11月26日（水）	公開“シンポジウム”栗ノ木川再生に向けた活動のプレゼンテーションがあった

4 これから～沼垂小学校6年生総合学習（まちづくり）との連携プラン

当初から連携し、公民館側も学習プログラムを持ち、同時に子どもと共学し、発表も一緒にしていきたいと思っている。

今年の4月18日に、「踊れ栗ノ木川桜祭り」と栗ノ木川川辺で子どもと地域の人たちで行うことを計画している。

すでに1月に小学校の先生と地域のグループ、有志でゆるやかな連携を目指す実行委員会を立ち上げ、着々と準備を進めている。